

～俳誌『かたばみ』389号 より

・かたばみ主宰の森田公司 作

盆踊暗きところに父がをり

蟻の道はじめをはりのなかりけり

去年今年つぼ押し棒をそばに置き

森田氏は聖なる教職を貫き通した賢人で、そのお人柄から、退職後は乞われて「NHK学園」俳句講座の目付役として活躍されているが、まさしく謹厳実直に服を着せた様な人物である。

句友 700 人を数える主宰結社「かたばみ」の誰もがその高潔なる人格と格調のある句風に頭を垂れるが、師の代表句の中で殊に上記 3 句は明らかに高尚な「滑稽」が潜んでいる。

八木健の【滑稽俳句術】第二項〈正直が可笑しい〉を实によく証明していて嬉しい。「楸邨」を生涯の師として仰ぎ「寒雷」の代表作家として活躍を続けつつ「澄雄」の『杉』で幹部同人の重きをなす森田氏の足跡を見てもその作品の高い文学性が偲ばれる。

さらに、その作品に隠された高質な「滑稽」は世界文学史上、天下の文芸珍味として誰もが諾うものであろう。

遅ればせながら【滑稽俳句協会】の隅っこに座らせて頂きその理念「滑稽こそ俳句の根源」をバイブルとして精進に励む所存である。